

日本イコモス国内委員会 日本の20世紀遺産20選に選定



①旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫であった赤れんが倉庫群(現赤れんがパーク)
②東市街地の碁盤目状の街路には軍艦名が付けられる③大正6年の新舞鶴市街地図(現東舞鶴市街地)

**舞鶴の海軍施設と都市計画
生き続ける軍都の格子状街路と赤れんがの施設群**

12月8日、文化遺産保存分野の専門家や専門団体で構成される日本イコモス国内委員会が選ぶ「日本の20世紀遺産20選」に「舞鶴の海軍施設と都市計画」が

日本の20世紀遺産20選一覧

- 1 上野恩賜公園と文化施設群(東京都)
- 2 国立代々木屋内総合競技場(東京都)
- 3 立山砂防施設群(富山県)
- 4 黒部川水系の発電施設群(富山県)
- 5 瀬戸大橋(香川県)
- 6 青函トンネル(青森県・北海道)
- 7 **舞鶴の海軍施設と都市計画(京都府)**
- 8 南禅寺界隈の近代庭園群(京都府)
- 9 隅田川橋梁群と築地市場他を含む復興関連施設群(東京都)
- 10 迎賓館赤坂離宮(東京都)
- 11 聴竹居(ちょうちくきょ)(京都府)
- 12 箱根の大規模木造宿泊施設群(神奈川県)
- 13 肥薩線(旧鹿兒島本線)(熊本県、宮崎県、鹿児島県)
- 14 鶴岡八幡宮境内の旧神奈川県立近代美術館(神奈川県)
- 15 有田の文化的景観/町並、産業・文化施設群(佐賀県)
- 16 旧朝倉邸と代官山ヒルサイドテラス(東京都)
- 17 小岩井農場(岩手県)
- 18 西条の酒造施設群(広島県)
- 19 東海道新幹線(東京都～大阪府)
- 20 伊賀上野城下町の文化的景観(三重県)

選ばれました。人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、建築的または技術的な集合体の類型、景観に関する顕著な事例を選定するもので、ほかには、青函トンネル(青森県・北海道)や迎賓館(東京都)、東海道新幹線(東京都～大阪府)などの日本を代表する建築物や技術(左表)が選定されています。

「舞鶴の海軍施設と都市計画」は、赤れんがパークを中心として広がる、赤れんが倉庫群や要塞、橋りょう、水道施設などの旧

海軍施設と東市街地の都市計画のこと。明治22(1889)年に、舞鶴鎮守府の設置が決定されたことにより、小さな漁村で人が通る道や峠道しかない田畑、谷あいには、一挙に近代的な軍港を建設しようとする壮大な計画でした。軍の大部隊の移動や訓練、軍事物資の補給に耐える交通網の整備、多くの軍人とその家族、関係者たちの居住に伴う市街地の造成が必要となったことによります。

明治35(1902)年、新たに造られた市街地の通りには、海軍のまちにふさわしく軍艦の名前が付けられ、市民に親しまれています。

施設 西総合会館の愛称が決定 ゆうさい会館をよろしく

西支所などが入る「西総合会館」の愛称が「ゆうさい会館」に決まりました。市民の皆さんにより親しまれるよう愛称を募集し、集まった32点の中から投票で決定(投票期間:11月1日～15日)。かつてこの地域一帯を治めた田辺藩藩主の細川幽齋公にちなんで名付けられました。今後は、親しみやすいイメージがあふれ、より地域に定着した市民が利用しやすい施設とするため、愛称を活用していきます。《西支所》



応募者は、
石原純子さん(七日市)

市では、災害が発生したときに、いち早く復旧活動が行えるよう建設機材などのレンタル会社である株式会社アクティオと「災害協定」を12月5日に締結しました。この日に行われた締結式では、同社の鈴木純也関西支店

長と多々見市長が協定書に署名しました。

協定では、市内業者で対応しきれない大規模な災害が発生したときに、同社が保有する建設機材や発電機、テント、投光機、大型扇風機、仮設トイレ、シャワーなどのレン

防災 建設機材レンタル会社と協定締結 災害時に機材などを優先貸し出し

タル機材を優先的に提供いただくこととなっています。またその際、市は同社機材の運搬車両を緊急、優先車両として交通規制のかかる道路を通行できるように支援することなどを定めました。

締結にあたり多々見市長は「本市が掲げる災害に強いまちづくりの取り組みに賛同いただき、全国にネットワークがある御社から申し出を受け、協定を締結することができました。災害時の迅速な復旧に大いに寄与するものであると確信しています」と述べました。



▲締結した協定書を掲げる多々見市長(右)と鈴木支店長(左)

《危機管理・防災課》

市は12月12日、一般社団法人京都府LPガス協会舞鶴支部から「防災向けプロパンガス発電機」の寄贈を受けました。

発電機は家庭用LPガスの容器に接続して使えるものでLPガス50ℓ容器で約110時間の発電が可能で、携帯電話のみであれば約300台の充電ができます。

また、同協会とは平成15年3月に災害時における物資の供給応援についての協定を結んでおり、災害が起こった時



▲発電機の寄贈を受ける多々見市長(右から4人目)

防災 災害時の防災活動の一助に LPガス協会から発電機寄贈

に避難所で必要なLPガス供給の協力を得ています。

寄贈を受け多々見市長は「本市の災害時の取り組みへの応援と、市民の皆さんの自衛・共助による防災活動を支援していただくものとなりました。大切に使用させていただきます」と述べました。

市では、寄贈いただいた発電機に加え、新たに1台を購入し、災害などにより市内で孤立が想定される白滝地区と岸谷地区に12月17日配備しました。《危機管理・防災課》



▲白滝地区と岸谷地区に発電機を配備(12月17日撮影)